

JIM-NET 便り

2025 2月号

発行：2025年2月28日

特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C

電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية



JIM-NET

20!

目次

- シリア国内支援とアサド政権崩壊後のシリア北東部 斉藤亮平（海外事業担当）…………… P2-3
- イラクのがんの子どもたちへの支援レポート 長谷部貴俊（海外事業担当）…………… P4-5
- 地域から平和を作る 郡司真弓（NPO 法人 WE21 ジャパンいずみ理事）…………… P6
- 支援者さん紹介：イラクチョコ募金の会札幌 七尾寿子・橋本まほろ …………… P7
- 企画展「JUSTPEACE! ～イラク、シリア、そして世界のこどもたちとともに」…………… P8

シリア国内支援とアサド政権崩壊後のシリア北東部

齊藤亮平（海外事業担当）

不安定な状況下で 生きる人々

昨年11月13日～21日の間、アルビル事務所スタッフのチームがシリア北東部を視察し、現地パートナー団体であるクルド赤新月社（KRC）と支援対象地域を視察しました。

この地域は、トルコによる占領と攻撃に晒され続けており、発電所、水道、石油供給所などが破壊されるなど、情勢は悪化の一途を辿っています。国際社会からの抑止力もなく、シリア領内の上空にはトルコ軍の無人偵察機が常に飛んでいます。民間人の車が爆撃され、死傷者が出ることが日常の一部となっています。「誰も自分たちの味方をしてくれない中で、どうやって安心して生きていけるのだろうか」。地元の人たちの口からは、そんな言葉が常に漏れています。また、このような状況下でも、昨年10月から激化したイスラエルによるレバノン攻撃で、シリア政権支配地域に避難できない避難民を、この地域では受け入れてきました。

人々は貧困ライン以下で生活し、公務員の月給は僅か30USD程度、自営業でも100USDから150USD程度です。100USDでは10日間の生活ですら厳しく、物乞いをする人も珍しくありません。ガソリン価格は1ℓ=1USDを越え、公共の電気が使えるのは1日2～3時間程度で、トルコから発電所を攻撃された際は、1ヶ月間

電気を使うことができませんでした。保健セクターでは、医療従事者が不足しており、医薬品も輸入に頼っているため高騰し、WHOやNGOからの支援も圧倒的に不足しています。

こうした厳しい状況の中、今年度はKRCとの協議で、下記の通り医薬品支援を実施しました。

■がん・サラセミア（地中海性貧血）センター

2023年、同地域に初めて開設されたがん・血液専門センター。首都ダマスカスやイラク北部アルビルまで治療に行く患者の負担を減らすために総合病院の一部として開設された。診断内容によっては転院の必要もあるが、これまでに337人（うち子ども16人）のがん患者、249人（うち子ども191人）のサラセミアの患者を受け入れてきた。NGOからの支援を受けていないため、深刻な医薬品不足に苦しんでいる。

JIM-NETからの支援:

9種類の抗がん剤及び抗がん剤の副作用を軽減する薬などの医薬品
約8,000USD分

■ワショカニキャンプ

トルコ軍に占領されたセレカニエ（ラアス・アルアイン）からの避難民が住むハサカ市郊外のキャンプ。人口約16,000人。昨年10月以降、レバノンからの避難民も300～400人受け入れている。

KRCのキャンプの医療部門の拠点となっており、小児科、婦人科、内科があり、24時間対応の救急車もある。1日約150～200人の患者が受診している。

■サリカニキャンプ

トルコから占領、攻撃されている地域からの避難民を受け入れているハサカ市内にあるキャンプ。人口は約16,000人。2900基のテントがあり、23年からキャンプは拡張されている。レバノンからの避難民も200家族ほど受け入れている。医薬品は殆どなく、保健センターも週に3日しか稼働していない。

■ナウロウズキャンプ

2014年、イスラム過激派組織IS（イスラム国）の迫害から逃れたイラク北部シンジャールのヤジディ教徒の避難先として設立されたキャンプ。現在はレバノンからの避難民約5,500人を受け入れている。KRCが運営する保健センターには毎日100人ほどの患者が訪れる。

JIM-NETからの支援:

上記3ヶ所の難民キャンプに、抗生物質や抗ウイルス薬、解熱剤、抗不安薬、心血管症薬、血栓予防薬などの医薬品約3,500USD分。



カミシリのがんセンター



がんセンターで治療を受ける子ども

アサド政権崩壊と 暫定政権の発足

先の見えない暗澹たる気持ちでリームがイラクに戻って束の間、シリア情勢が急変しました。12月8日、アサド政権が崩壊し、50年以上続いた独裁政権に終止符が打たれました。イラク北部アルビルでも反体制派の旗を掲げた車やバイクと共に独裁からの解放に喜ぶシリア人を多く見かけ、未来への希望を見出す人たちの声が溢れていました。

現在、旧反体制派の HTS (シャーム解放機構) 率いる暫定政府が政権運営を担っています。外交面では、HTS の指導者のシャルア氏を中心に、関係各国や国際機関との会談を重ね、対シリア制裁の解除や物資や技術支援への協力要請を活発化させています。一方、内政面においては、国内多数派のイスラム教スンニ派のみならず、国内の多様な民族、宗教・宗派との融和を目指し、民主主義的な体制構築を訴えています。道筋は不透明なままです。暫定政府の任期である 2025 年 3 月までの間に、国民対話会議が開催予定でしたが、延期が決定され、新体制への移行にも遅れが出る可能性が高まっています。また、その遅れと共に、シャルア氏に権力が集中し、「新たな独裁者」を生み出さないことが重要だという指摘も相次いでいます。

新たな国内避難民と 緊急支援

喜びで溢れていたシリア人の声は、一ヶ月前と比べると変化も見られます。南部や首都の一部へのイスラエルからの空爆や侵攻、東部での過激派組織 IS「イスラム国」の勢力再拡大の動き、北部や北東部おけるトルコ軍及びトルコの支援を受けるシリア国民軍 (SNA) とアメリカが支援するクルド人勢力組織シリア民主軍 (SDF) の激しい衝突



がんセンターへ届けた医薬品支援 サリカニキャンプ

など、情勢は総じて悪化していると報告を受けています。アメリカ軍の撤退も発表される中、読めない今後の情勢に、人々の不安は募るばかりです。

現在、KRC では保健セクター、水や衛生セクターの緊急支援に取り組んでいますが、人の往来が激しく、KRC やその他の現地団体でさえも、対象人数の把握が困難な状況です。避難してきた人々は学校やモスクなどで寝泊まりしており、地域住人は、避難民を自宅に迎え入れるなどしています。緊急措置として、市営スタジアムにテントを設置して人々を受け入れています。毛布や暖房器具や燃料などが不足しており、人々は寒さと不安の中で過ごしています。自治政府は、ラッカ周辺に国内避難民キャンプを新たに開設する予定ですが、混乱の中、キャンプ新設には至っていません。

シリア支援を担当するスタッフのリームは、このように語っています。

「昨年 11 月、私がシリア北東部に渡航した時、人々は心の平穏を忘れ、何年にも渡る戦争の疲労の蓄積が目に見えてわかりました。人々も町の様子も本当に疲れている、そう感じました。

イラクに戻って間もなく、アサド政権軍の抵抗もなく、HTS によるシリア各地の解放が始まりました。あまりにも急な展開に、何が起きているのか情報に追いつくのが大変な日々でした。私たちは 24 時間寝ることなく、テレビや電話から片時も離れずにその様子を見ていました。政権崩壊が伝えられた 12 月 8 日の朝は、夢の中にいるような信じられない瞬間でした。皆で喜びを分かち合い、シリアに戻る計画



ハサカ市に住む貧困患者家族

を立て始める人も多くいたけれど、その夢心地は僅か数日で途絶えました。

HTS がアレッポを開放した後、2 日後にはシリア国民軍 (SNA) によるシャハバ地域への攻撃が始まり、少数民族やクルド人は虐殺や迫害を恐れ、アレッポ周辺のシャハバ地域やタル・リファート、更にはダマスカスや他の都市からも少数派の人々が、北東部のハサカやラッカへと避難しました。トルコの占領を支持し、土地を奪い、命を脅かす同胞に絶望を感じています。かつて、シリアのために大きな犠牲を払いイスラム過激派組織 IS (イスラム国) と闘ったクルド人部隊は、今シリアから見放されています。歴史や人種差別はまた繰り返されるのでしょうか。私はそれでも暴力もテロもない新しいシリアに生まれ変わることを願い続けるし、そして何より、情勢に翻弄された人々が明日を生きるために、この北東部の窮状のために何かしたい、と強く思っています。凍てつくような寒さが続くこの地域を、どうか支えてください」

刻々と状況が変化の中で、現在パートナー団体の KRC と協議を重ね、シリア北東部への緊急支援の準備を進めています。応援のほど、よろしくお願いいたします。



イラクのがんの子どもたちへの支援レポート

長谷部貴俊（海外事業担当）

貧困患者支援

～厳しい状況に置かれる 国内避難民のがんの子ども

小児がん支援の現場で最も必要とされている支援の1つが貧困患者支援です。公立病院での医薬品は無料ですが、病院では不足することもままあり、患者家族は自分で購入しなければなりません。

高額な抗がん剤や検査費用、病院までの交通費は、貧困患者やその家族にとっては大きな負担となり、時に治療の継続が困難な状況に直面します。社会保障や保険制度がないために、親戚や知人に借金をする患者家族もありますが、借金さえもできない人たちがいます。シリアからの難民や国内避難民の患者とその家族です。



最近のカマル



治療中のカマル（2023年10月）

JIM-NET が支援している急性リンパ性白血病(ALL) を患ったカマル(8歳) もその中の一人です。カマルの一家の出身はイラク北部シンジャール地区。2014年、イスラム過激派組織IS(イスラム国)の侵攻により町は破壊され、そこに住む多くのヤジディ教の人々は虐殺、連れ去り、性奴隷の犠牲となりました。カマル一家はISが侵攻した直後、全てを捨てて必死の覚悟でアルビルに逃れ、アルビル市内のハルシャム難民キャンプへと移り住みました。しかしそのキャンプも昨年の夏、中央政府から住民に対して、住んでいた地域に戻るよう通達があり、電気、発電機、水を含むキャンプ内でのサービスの停止が発表されました。

こうした状況下、一家は、昨年10月にハルシャム難民キャンプを出て、現在は市内でも家賃が安い地域に家を借り、辛うじて日雇い労働の父の収入で生活を繋いでいます。高い失業率や物価上昇、公務員の給与未払いなどによる貧困だけでなく、イラク国内

には100万人を超えるカマル一家のような国内避難民がいます。こうした国内避難民のがんの子どもたちやその家族を対象とした貧困患者支援の需要に、追いついていないのが現状です。しかし、貧困患者支援は確実に子どもたちの命を繋ぎ、再び学校や地域社会に戻ることができるように後押ししています。カマルへの支援も、2023年8月にがんが見つかった以来、これまでに約15万円の医薬品購入や検査費用の一部を支援してきました。両親は、「この支援がなかったら、貧困状態にある私たち家族だけの力では治療が続けられなかった。これまでカマルを家族で支えてこられたのもJIM-NETからの支援があったからこそです」と、感謝の言葉を伝えてくれました。

国内避難民とシリア難民の貧困患者支援を担当しているリームは、「私自身が故郷を追われてイラクへ来たので、彼らの状況や痛みが手に取るかのように分かるんです。でもそれと同時

に、それぞれ避難民は異なる状況を抱え、理解しようと思っても理解できない厳しい物語ばかりです。彼らと話していると、たとえ顔では笑っていても、何の保証も希望もない中での生活に、常に不安が横たわっていると感じます」と話します。現在、カマルは厳しい治療にも耐え、病気も快方に向かい、学校に通えるようにもなりました。カマルが元気に回復していることは、家族にとっても、そして私たちスタッフにとっても、とても嬉しいことです。



厳しい難民キャンプの住環境



難民キャンプのカマルの家





シマの学校で実施したがんに関するレクチャー



校長(左)とシマ(右)



学校での様子を話すシマ

がんに関する啓発活動 ～シマが通う学校への訪問～

「がんの治療が終わっても、その後学校でうまくやっていけないの・・・」イラクの小児がん支援の現場ではこのような言葉を多く聞いてきました。復学してもすぐに退学しまった、というケースも少なくありません。数年間に及ぶ治療で勉強についていけなくなってしまったことや、「がん」という病気に対する誤った認識が主な原因です。がんの子どもたちが地域社会や学校に戻りやすい環境を整えることは JIM-NET の大事なミッションの一つと考え、近年では子どもたちが復学した学校でのがんに関する啓発活動に力を入れています。

シマは今年のチョコ缶の赤い花を描いてくれた、笑顔を絶やさない12歳の女の子です。貧困家庭に育ち、これまで JIM-NET では医薬品購入の支援、院内学級や心のケアも含めてシマを支えてきました。がんの治療のために約3年間も学校へ通うことができませんでしたが、彼女はたゆまぬ努力と強い意志で復学することができました。しかし、3年間の空白を埋めるのはそう簡単ではありません。シマやご家族の意向とソーシャルワーカーであるスタッフのバルザンの勧めで、現在は2学年分のカリキュラムを1年で学べる特殊なプログラムを持つ学校に編入し、3年生及び4年生の内容を同時に勉強しています。

昨年12月、シマが通う学校をスタッフのバルザンが訪問しました。校長は、「治療のことも聞いていたから、彼女の状況は理解しています。いつも気にかけてながら支えています。シマは自分の娘のようだよ」と、温かく話してくれました。そしてバルザンから、シマが描いたチョコ缶やその絵を見せると校長は大喜び!

「チョコ募金、とても素晴らしいアイデアだね! 缶の一つがシマの絵なの? すごいね、シマは私たちの誇りね!」と感銘を受けた様子でした。周りにいた教員も、「今度は学校でこのチョコ募金をやってほしい、こうしたチャリティに参加したい子どもたちや教員もたくさんいるはずよ!」と、チョコ缶やシマの描いた絵を見せ合いながらとても嬉しそうでした。

その後、JIM-NET のスタッフは校内の講堂でがんに関するレクチャーを行いました。がんという病気やがん患者との接し方など、これまで聞いたことのない話に熱心に耳を傾ける生徒たち。参加した教員は、「学校でこのような若者の心を教育するレクチャーは重要ですね」と、振り返りました。

レクチャーの後、バルザンが校庭でシマと話をすることができました。学校生活について聞くとシマは顔を輝かせ、学校での楽しい日々のことを、いつもの笑顔と共に話してくれました。将来のことに話を向けると、シマはためらうことなく、「医者になりたい。病気の人や子どもたちを治療できるから」と答えました。



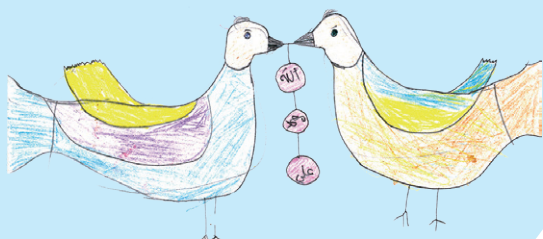
急性リンパ性白血病で、何度も挫折しそうになりながら治療に立ちむかっていたシマの姿を見てきたバルザンは言います。「シマは今、自信と喜びに満ちています。経済的には困難な状況にあるけれど、シマの回復力は輝かしい希望であり、病気で苦しんでいる子どもたちの道しるべとなるでしょう。そしてどんな困難も強く乗り越えろ!と私たちを強く励ましてくれています」

これからも、長く時間はかかりますが、がんの子どもたちの傍らで支えていけるように、子どもたちのケアを続けていきたいと思っています。

皆さんがカマールやシマのような子どもたちの命を繋ぎ、支えてくださっていることに改めて感謝申し上げます。

地域から平和を作る

郡司眞弓 (NPO 法人 WE 21 ジャパンいずみ理事)



NPO 法人 WE21 ジャパンは、主に神奈川県内に 42 店舗のチャリティーショップ「WE ショップ」を展開しています。物品を寄付する人、お買い物する人、ボランティアする人など参加型で運営し、行政区ごとに NPO 法人を取得して各々支援事業を推進しているネットワーク型組織です。ショップ事業の純益は主にアジアの女性や子どもたちなど立場の弱い人たちのサポートに関わっている NGO に支援しています。さらに、単に支援金を送るだけでなく、店内に活動の情報を展示し、また地域の人たちと対話するなど情報発信と人との交流を進めて 25 年が経ち、今では地域のオアシスの場となっています。

2012 年、福島県出身の私は東日本大震災後に有志でウクライナのチェルノブイリ原発を視察に行きました。放射能被害から子どもたちをどのように守ろうかと悩んだ末の視察でした。当時はチェルノブイリ原発事故から 26 年が経ち、すでに放射能はゼロに等しいのではないかと安

易に考えていました。ところが、現地の放射能数値は高く、さらに子どもたちの身体に影響を及ぼしていることに愕然としました。訪問した保育園の園長先生の「子どもたちはがん、心臓病、気管支など複数の病気を抱えている」との言葉を裏付けるように、元気に園庭を走り回っている子どもはいませんでした。高校の先生も期末テストは試験勉強で生徒たちの体力が消耗するため実施できないとのこと。この現実直面し、放射能は長年にわたり人体へ影響を及ぼすことを目の当たりにしました。

このことはイラクの子どもたちにも同じことが言えます。1991 年の湾岸戦争から 33 年、2003 年のイラク戦争から 21 年が経ちましたが、使用された劣化ウラン弾は大気や土壌を汚染し、その後小児がんが増加しました。私たちは苦しんでいる子どもたちに思いを馳せ、各ショップで「愛のチョコ募金」に取り組んでいます。一人でも子どもたちに関心を持つ人を増やしていきたいと思い、日々ショップでチョコの先に見えるイラクや福島の子供たちを語っています。これまでの戦争や紛争によって社会は分断され、イラク人同士の協働が難しい側面も出てきました。そこを医療支援を通して、つなぎ合わせるのが JIM-NET の役割となった今、イラクでの活動はさらに重要になってきます。

世界中で戦争や紛争が勃発するたびに被害に遭うのは子どもたちです。子どもたちに何も罪はありません。傍観者は戦争を加担する側になります。私たちは傍観者になるのではなく、一人でもできることから力を合わせて平和の道筋を作っていきましょう。



地域みなさんと（右から3人目が郡司さん）





支援者さん紹介 イラクチョコ募金の会札幌



缶やカードの絵は、子どもたちの思いが伝わってきます。

七尾寿子 (イラクチョコ募金の会)

「今年は、クラゲが登場したんだね」毎年、チョコを預かってくれるイラクチョコ募金の会札幌のメンバーが手に取ってくれます。

札幌で、友人たちとイラク攻撃に反対の声を上げたのは、2003年。その中で知ったのが、劣化ウラン弾による被曝が強く疑われる白血病や小児がんの発病です。

戦争が終わった後もとりわけ子どもたちに影を落とす健康被害に心を痛めていた時にチョコ募金の活動を知って、チョコを預かるようになって20年になりました。いつのまにかそのまま、会の名前になりました。

遠く離れたイラクやシリアの子たち、その家族とチョコで繋がって、しかも、



地元、北海道のお菓子屋さん「六花亭」のハート型のおいしくてかわいいチョコ。そして、缶やカードの絵は、子どもたちの手によるもので、思いが伝わってきます。

2011年の3.11 東日本大震災と福島原発の重大事故では、JIM-NETもいち早く石巻の救援に駆け付け、福島の子どもの支援に力を尽くし、今も保養の助成を続けていることは、私たちにも励みになります。

メンバーやその知り合いのカフェ、お店、教会、チョコ募金のコーナーを出させてくれるイベントや集会、講座・・・と、これからも、この小さなチョコ缶を届けたいです。

「個の尊重」と「共生」の世界へ

橋本まほろ (札幌円山のオーガニック・自然食品専門店 らる畑代表)

らる畑ではイラクチョコ募金の会が立ち上がってから、毎年チョコ募金の応援をしています。昨年の夏はJIM-NET事務局からスタッフのお二人が、らる畑を訪ねてくれました。

イラクの子どもの医療支援を続け、シリア、福島の支援も含めて息の長い活動をしているJIM-NET。この活動を知っていただき、お客様に1個からでも募金に参加して頂けたらとお預かりしています。

私はJIM-NETの活動から、湾岸戦争で使われた劣化ウラン弾は原発の燃料になるウランの加工で生まれたもので、原発を推進する日本と小児がんで苦しむイラクの子どもの問題は根底で繋がっているということを知り、大きなショックを受けました。

戦争はなくなり、もう2025年。ようやくイスラエルが45日間の停戦に合意しましたが、まだパレスチナの人たちの苦難が終わった訳ではありません。人々は日



イラクチョコ募金の会札幌のみなさん
(左：七尾さん・真ん中：橋本さん)

常と平和が一刻も早く戻ることを望んでいるといいます。

「差別」と「無関心」に覆われた世界ではなく「個の尊重」と「共生」の世界へ。

これを書いているのは旧暦新年の日。またあらためて強く心に刻みたいと思います。

企画展

J U S T P E A C E !

～イラク、シリア、そして世界のこどもたちとともに



会期：2025年3月20日(木・祝)～3月25日(火)

時間：11時～18時30分

初日(20日)は15時から／

最終日(25日)は16時まで

会場：神保町・文房堂ギャラリー

東京都千代田区神田神保町1-21-1-4F



穏やかな陽の光が差し込む広い空間の文房堂ギャラリーさん。2022年に神保町で出会って以来、年に一度のギャラリー展は、イラク戦争開戦日の3月20日前後に開催しています。それは、イラク戦争後に急増したイラクの小児がんの子どもたちを支援するために発足したJIM-NETとして「その日」を記憶することが大切だと考えたからです。ここ数年は、高校生や大学生の方々と出会う度に「イラク戦争を知らない世代」がこれからの日本と世界を担っていくことを改めて実感することが増えております。同時に、ウクライナ戦争、ガザ紛争も未だに先が見えず、世界は平和からどんどん遠のいていっているように感じることも多くなりました。

今回の企画展では、映像ジャーナリストとして中東地域のほか、アフガニ

スタン、ミャンマー、ウクライナなどを取材される玉本英子さんにお写真をお借りしました。2004年～2019年のイラクとシリアの様子をご覧ください。また、サヘル・ローズさんは、「表現者」としてのお仕事の傍ら、イラクだけでなく、イラン、インドネシア、バングラデシュ、ウガンダなど、さまざまな国の貧困地域、難民居住地を訪れ、平和への発信を続けていらっしゃいます。ギャラリーの一部では、サヘルさんが出会った子どもたちの作品や手紙をご紹介します。

期間中には、サヘルさん(表現者)、Yaeさん(半農半歌手)、鎌田實(JIM-NET名誉顧問)を迎えてイベントも開催いたします。詳細は同封のちらしまたはHP、SNS等でご確認ください。



特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット

Facebook、Twitter、Instagramもぜひご覧ください。『JIM-NETで検索』

募金・サポーター会費はこちらへ→

